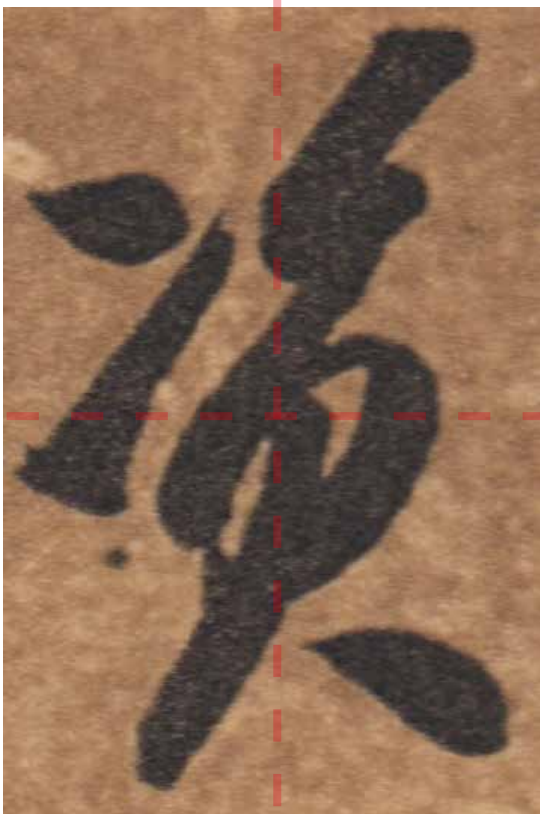




支



●



●



文

ちち



と



きみ



つか



うるに

父に仕えるのと同じ気持ちで君に仕える

それは尊ぶことと敬うことである



いわ



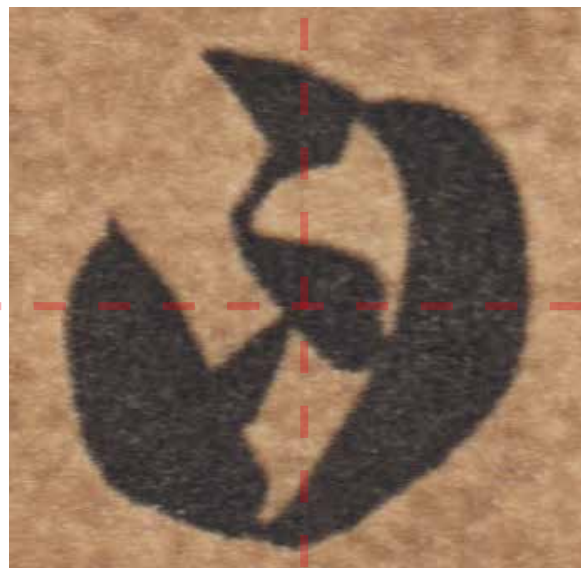
げん



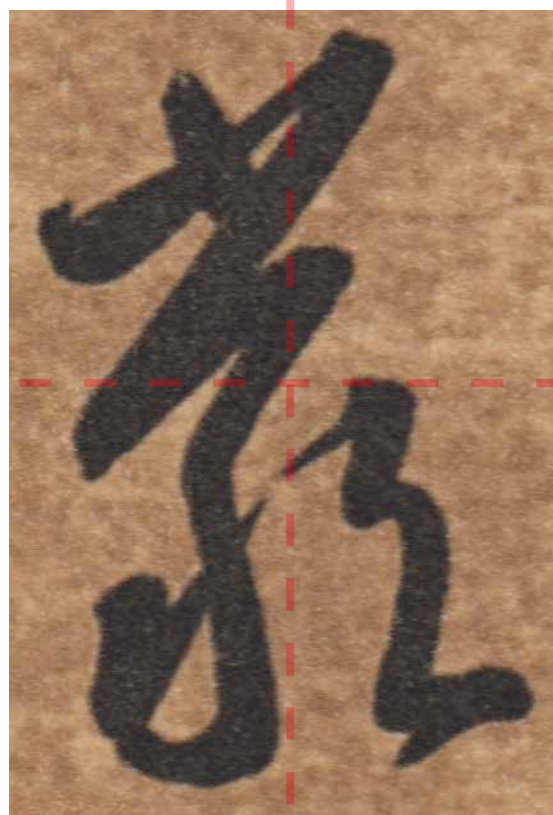
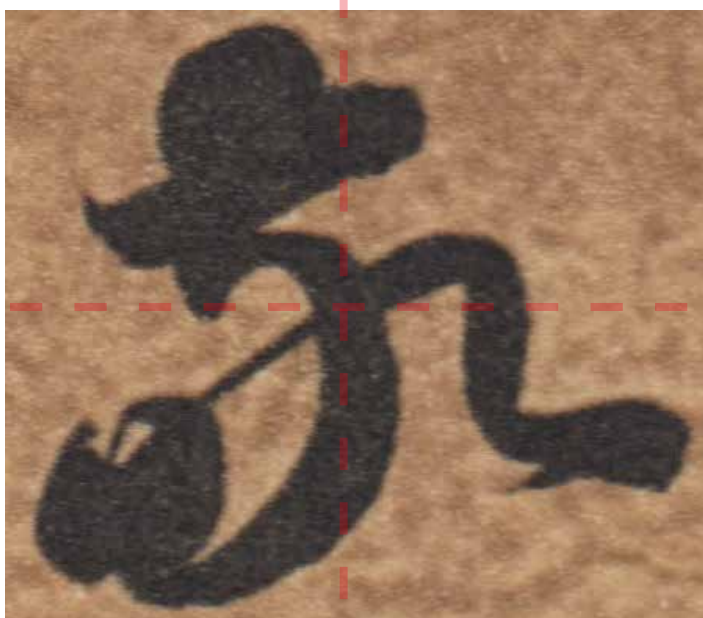
けい



と。



魚



塩

父母には心力の限りを尽くして孝行すべし

孝

こう

当

まさ

に

力

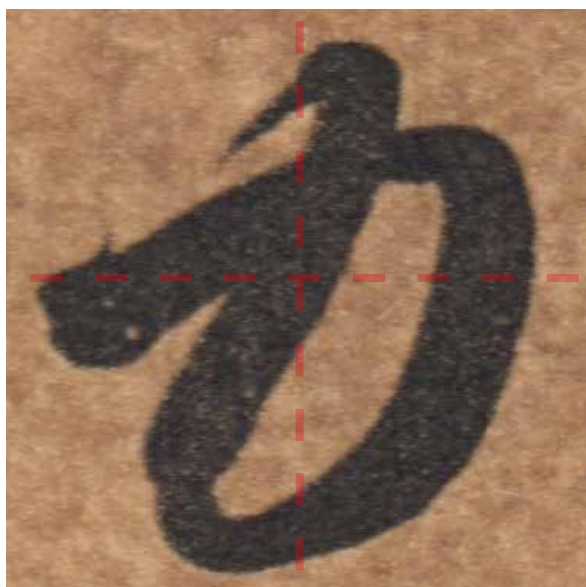
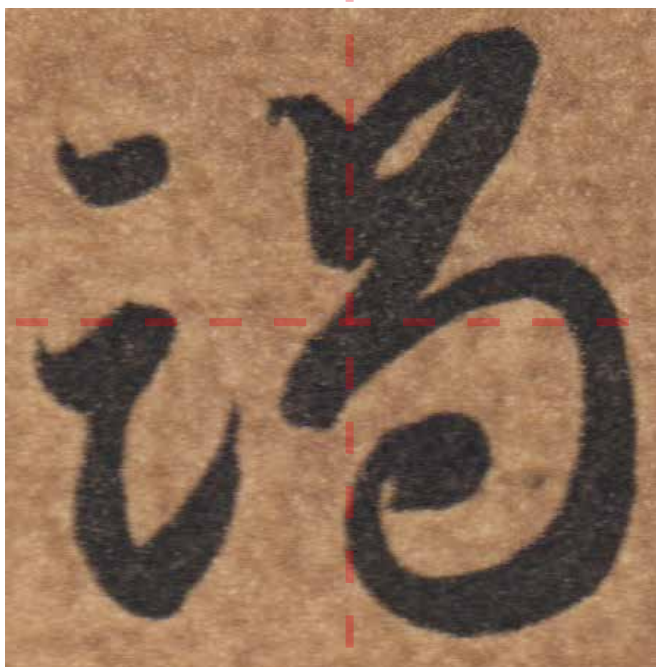
ちから

を

竭

つ

くすべし。





ちゅう

は



すなわ

ち



めい

を



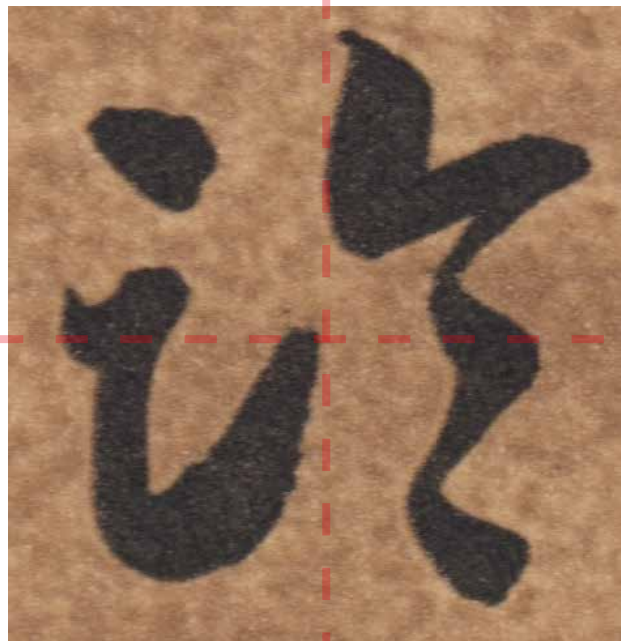
っ

くせ。

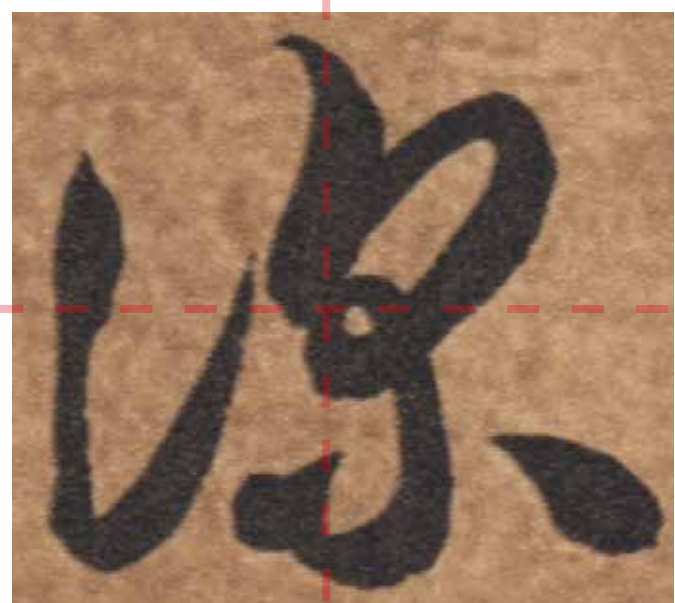


東

君主には命の限り忠義を捧げて仕えよ



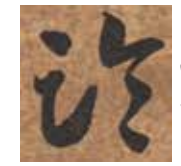
侵



侵



ふか



のぞ



うす



ふ

忠孝の道を尽くすことは、深い淵にのぞむべく、
薄氷を履む時のように仕えよ。

きに
むがごとく、
うす
きを
後
むがごとく。

朝早く起き冬は温め夏は涼しくする心配りをせよ。



つと



お

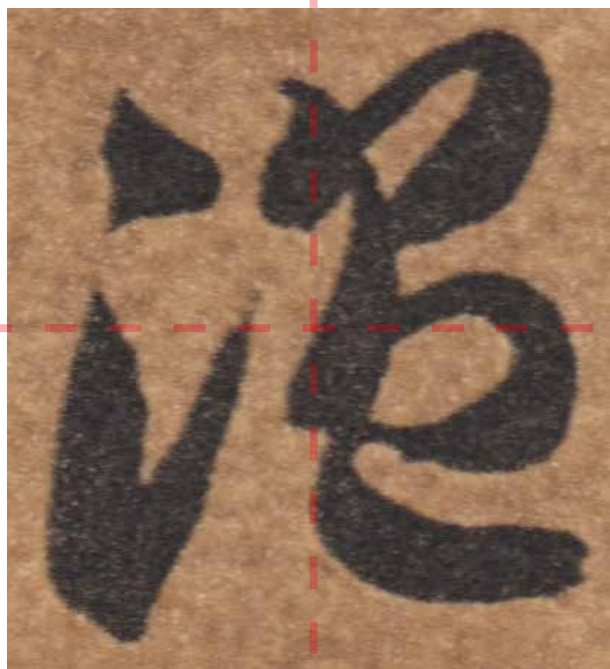
きて



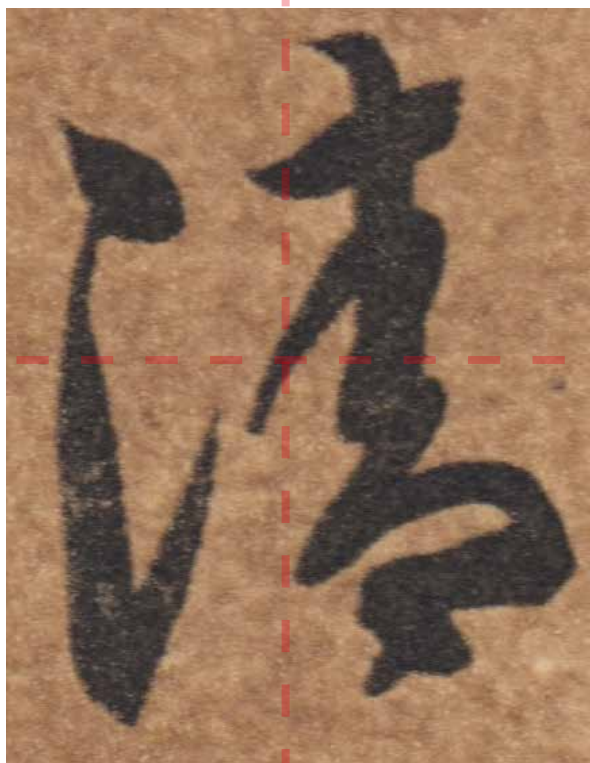
おんせい



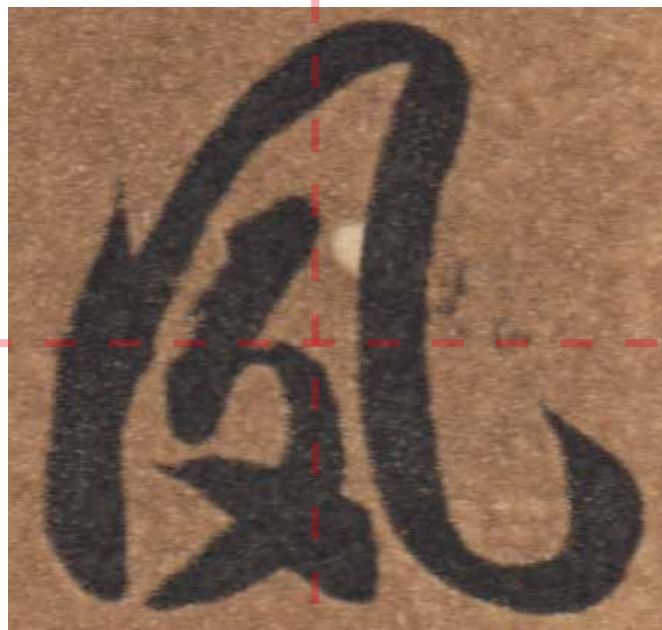
せよ。



先



庚



蒸



らん



そ



かんば



に

、

蘭の香りに似るを目指して、道を修め徳を立てよ。



支

青 ●

寒

松が色を変えないように、その誉れは讃えられるであろう。



まつ

の



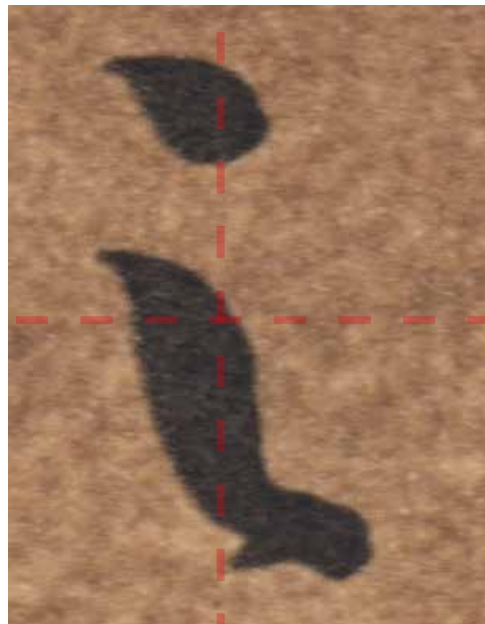
さか

んなるが



ごと

し。



支



魚



庚

●



冬

川 かわ

は な

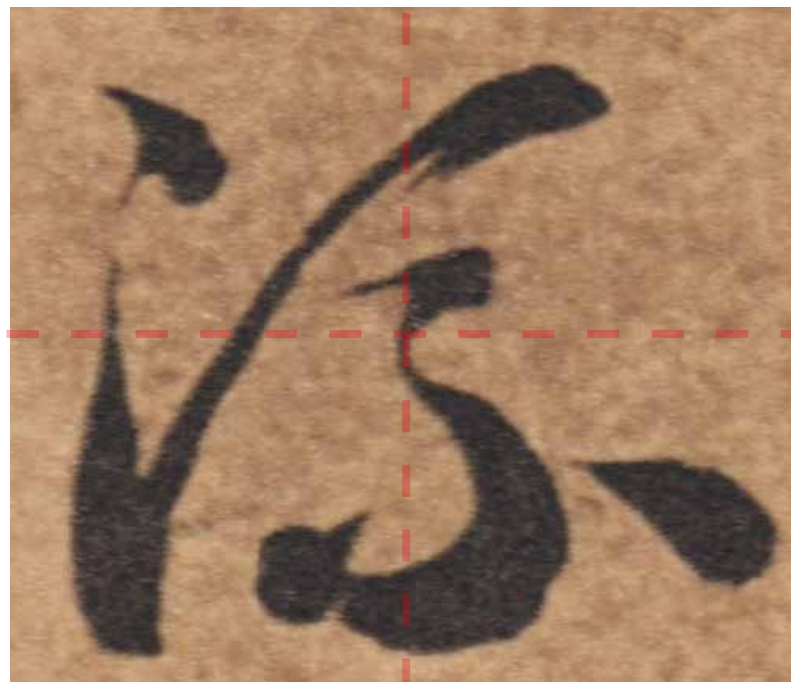
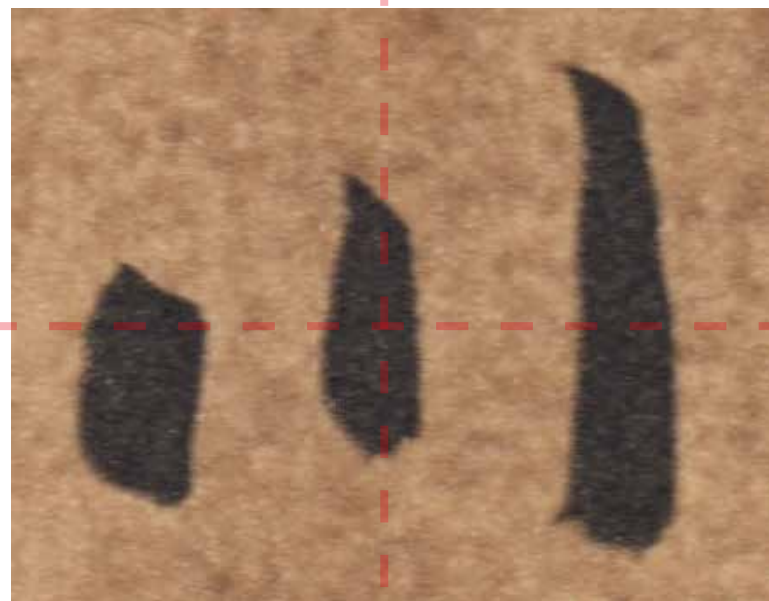
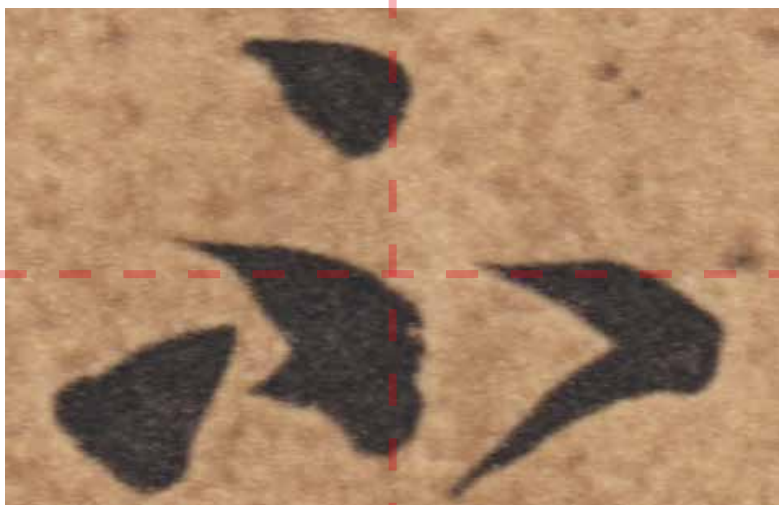
が

れ や

て

まず、

川が休むことなく流れるように、徳行を積むならば、



尤 ●

先

尤

深い淵が万象を映し出して澄み渡るように
その人望も高まるであろう。



ふち



す

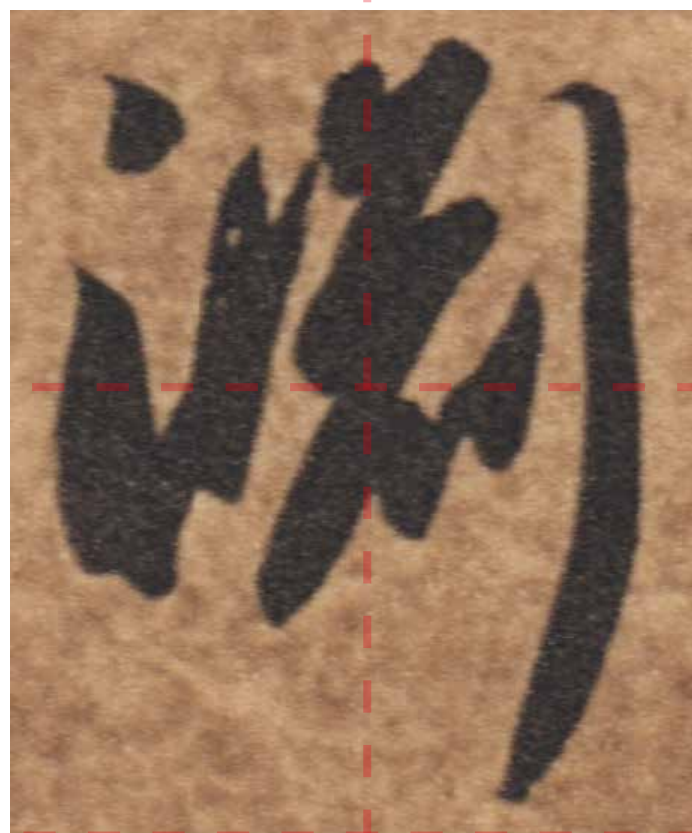


えい



と

は
澄
んで
映
を
取
る。



先



蒸